

浦城中学校便り

平成24年8月31日（金曜日）
第5号 文責：校長 牧野 直樹

2学期も頑張ろう 夏～秋～冬

37日間の夏休みもあっという間に終わり、3つの学期の中で一番長い2学期が始まりました。

夏休みは全員、事故にも遭わず病気にもかからず、元気に過ごすことができました。県内でも小学生、中学生、高校生がそれぞれ一名ずつ水の犠牲になったことを思うと、命が一番大切だとつくづく考えさせられます。

2学期は行事が多く、季節も夏から冬までまがっていますが、勉学にスポーツに最も適した学期でもあります。運動会、中体連秋季大会、学習発表会、持久走大会などの行事が待っていますし、3年生にとっては実力テストが2回あり12月には進路決定も待っています。何事にも全力で取り組みましょう。

「平和学習」 戦争体験を聞く 7/30

先月30日（火）の登校日に、「平和学習」を実施しました。毎年実施していますが、今年は戦争を体験された方から直接お話をきくという内容でした。

お話をいただいたのは「延岡の語り部、萌ぎの会」の吉田千鶴子さん（市内在住）と塩谷五月さん（島野浦在住）のお二人でした。吉田さんは昭和20年6月の延岡大空襲の様子をお話下さいました。塩谷さんは昭和20年の5月の島野浦小学校の様子をお話し下さいました。延岡市内や島野浦で子どもを含むたくさんの人々が命を落としたこと、その時の様子や悲惨さについて身振り手振りを交えて涙ながらに語って下さいました。この戦争体験をきく「平和学習」は子供たちの心にもとても強く響いたようです。

体験を聞いて全員に感想文を書かせ、宮崎日日新聞に投稿しましたところ、その中の磯谷実穂さんの感想文が8月17日の「若い目」の欄に掲載されました。さらに、その実穂さんの感想文を読んだ宮崎市内の81歳の方から実穂さん宛に実穂さんの作文に感動したという内容のはがきをいただきました。浦城中で行った「平和学習」の生徒の感想文が新聞に掲載され、それを読まれた何万人という購読者の方が、感動し、平和の大切さや戦争を生涯語り継ぐことの大切さを再確認した事になります。教師の誰一人として戦争を知らない学校現場、戦争

体験者も確実に減少してくる現実、「平和教育」を続け、戦争を後世に語り継がなければいけないと感じました。

「戦争を語り継ぐ」

浦城中1年 磯谷実穂

7月30日の登校日に平和学習がありました。今回の平和学習は実際に戦争を体験された方に学校に来ていただき、戦争のお話をしていただくというものでした。

私はものすごく怖い話になるだろうと想像はしていましたが、想像以上でした。片方の足がちぎれながらも生きようと廊下をはいつくばっている子どもの話やガソリンが川の水に浮き、きれいで透明な水の川が残酷で真っ赤な日の川に変わり果てる姿など、今の平和な日本では考えられせん。こんな残酷なことが二度とおこらない



吉田千鶴子さんによる延岡大空襲お話

ように私たちがおばあちゃんになっても語り継いでいなくてはなりません。

磯谷実穂さんへ

宮崎市平和が丘北町 TN (81歳)

猛暑が続きます。八月になると、戦争末期のことを思い出して平和維持のため、私自身ができることを実行しています。

宮日の17日の「若い目」の中に「戦争を語り継ぐ」との磯谷実穂さんの文を読み、心から感動致しました。平和学習で体験者から学んだことは、戦争の残酷さでした。そうですね。いのちを踏みにじり文化・生活を破壊することでした。しかし、実穂さんは、戦争を否定し、平和のために戦争を生涯語り継ぐと決意しています。すばらしいことです。

実穂さんたちのような中学生に、私たち年寄りも将来を任せる事ができます。平和学習を実践された学校、先生方に敬意を表したいです。体験者にも尊敬の心を捧げます。友達、先生を信じ合い、ご家族を大切に頑張ってください。体に気をつけて2学期も頑張ってください。ありがとうございました。



塩谷五月さんによる島野浦空襲のお話

